

ゆかたびら 明衣一つ給^たび畢^{おわ}んぬ。

女人の御身、男にもをくれ、親類をもはなれ、一二人あるむすめもはかばかしからず、便りなき上、法門の故に人にもあだまれさせ給^後ふ女人、さながら不^ふ輕^{きょう}菩薩^{ぼさつ}の如し。仏の御姨母^{おばま}摩訶^か波闍^は提^だ比丘^{びく}尼^には女人ぞかし。而るに阿羅漢とならせ給^よひて声聞の御名を得させ給^よひ、永不成^{ようふ}成^{じょうぶつ}仏の道に入らせ給^よひしかば、女人の姿をかへ、きさきの位を捨て、仏の御^勤すゝめを敬ひ、四十余年が程五百戒を持ちて、昼は道路にたゝずみ、夜は樹下に坐して後生をねがひしに、成仏の道を許されずして永不成^{おんのんごう}成^{ごかんき}仏のうきなを流させ給^よひし。くちをしかりし事ぞかし。女人なれば過去遠々劫の間、有るに付けても、無きに付けても、あだ^虚な^名を立てしは、はづかしく口惜しかりしぞかし。其の身^厭をいとひて形をやつし尼と成りて候へば、かゝるなげきは離れぬとこそ思ひしに、相違して二乗となり永不成^{ごかんき}成^{ごかんき}仏と聞きしは、いかばかりあさましくをわせしに、法華經にして三世の諸仏の御勸氣を許され、一切衆生喜見仏と成らせ給^よひしは、いくら程かうれしく悦ばしくをはしけん。さるにては法華經の御為と申すには、何^{いか}なる事有りとも背かせ給^よふまじきぞかし。其れに仏の言はく「大音^{だいおん}声^{しょう}を以て、普^{あまね}く四衆に告げたまわく、誰か能く此の娑婆国土に於て、広く妙法華經を説かん」等云云。我も我もと思ふに、諸仏の恩を報ぜんと思はん尼御前・女人^{たち}達、何事をも忍びて我が滅後に、此の娑婆世界にして、法華經を弘むべしと三箇度までいさめさせ給^よひしに、御用ひなくして他方の国土に於て広く此の經を宣べんと申させ給^よひしは能く能く不得^{ふとくしん}心の尼ぞかし。幾^{いくばく}か仏^{にく}悪しとをぼしけん。されば仏はそ^外ばむきて、八十^{まん}万^の億^く那^な由^ゆ他^たの諸菩薩をこそつくづくと御覽ぜしか。

されば女人は由なき道には名を折り命を捨つれども、成仏の道はよはかりけるやとをばへ候に、今末代悪世の女人と生まれさせ給^よひて、かゝるものをばえぬ島のえびすに、の^言られ、打たれ、責めをし^のび、法華經を弘めさせ給^よふ。彼の比丘尼には雲泥勝れてありと仏は靈山にて御覽あるらん。彼の比丘尼の御名を一切衆生喜見仏と申すは別の事にあらず、今の妙法尼御前の名にて候べし。王となる人は過去にても現在にても十善を持つ人の名なり。名はかはれども師子の座は一なり。此の名もかはるべからず。彼の仏の御言^逆をさか^反へす尼だにも一切衆生喜見仏となづけらる。是は仏の言をたがへず、此の娑婆世界にて名を失ひ命をすつる尼なり。彼は養母として捨て給^よはず。是は他人として捨てさせ給^よは^{へん}ば^ば偏^{へん}頗^ばの仏なり。争でか^{ごちゅうしゅじょうしつぜ}さる事は候べき。況んや其中衆生悉是吾子の經文の如くならば今の尼は女子なり、彼の尼は養母なり。養母を捨てずして女子を捨てる仏の御意やあるべき。此の道理を深く御存知あるべし。しげければとゝめ候ひ畢んぬ。

日 蓮 花 押

妙 法 尼 御 前